



大きな舞台と、小さな舞台

及川ふみ

この夏のはじめに戸倉ハル先生は急に渡仏された。

例年七月二十一日から、お茶の水女子大学で開催される、戸倉先生を講師とする幼稚園の講習会のことを大きな氣がかりに残して、世界女子体育指導者会議に参加のための渡仏であった。

そのローマからの御手紙の中に

フランスから、ドイツ スイス イタリアと歩きまし

た。ドイツはすごい戦災です。東京以上の様に思えます。若い女の子は、おしろいも、口べにもつけず、青年は短パンツでおそろしい意気で御座います。それにしても日本はあまくて、サカダチしている感じがいたします。

今日はローマにつきました。(八月十一日)大理石の町古典な様子、ローマは一日にしてならぬ感を深ういたします。フランスにまさる美術を明日から見てもわります。三日たちましたら、スペインに渡ります。

「幾山河こえさりゆかば悲しさの

果てなん国ぞ今日も旅ゆく」

とあった。

戸倉先生は、この後アメリカに渡られて、十月のうちには、なつかしの故国に帰朝なさる予定です。

外遊中においての、女子体育、幼児のリズム遊び等の御専門のことについては、いづれ皆さん方と共に、その見開の実情を伺いもし、又来るべき講習会にはそれらを

とり入れられた、大きな抱負に発表されることも期待されて楽しみなことである。

広い欧米の世界を狭しとして、その見学の地域を西え西へと移しながら、世界の文化を目に耳に（とくに戸倉先生には、手に、足に、とつけ加えたい）吸収されてお帰りになることとおまちしている次第である。

広い世界のことから、国内の狭い話に、急に舞台がまわってしまつて与味もさめてしまうのであるが、自分はこの夏、福島を最始に、茨城、埼玉、山梨、神奈川などと、東京の周辺地域を歩いた。そしてそれぞれ異った土地の幼稚園を見学し、先生方にも親しくお目にかかる機会が出来て、楽しい旅をつづけたのであった。

東京での研究発表会や、講習会に参加下さる先生方の現場の実状がよく見られてまことにうれしかった。その土地々々で、その設備の点や、人の点、幼児の状態、保護者の状況など様々の悪い事情の中で、ただひたむきに

幼児の教育に強い力を注がれているそのけなげなありのままの姿であつた。

幼稚園教育がここ数年とみに進展して、その増設、教員の増加など著しい、したがって先生方は若く、新らしくこの道に進まれた方の多いことである。各地の協議会では、幼児指導の内容面のことはもとより、小学校と幼稚園との諸問題、家庭と幼稚園との諸問題などについても日常熱心に研究されていて、活潑な意見発表の交換があつて、たのもしく感じられた。これに参加させてもらつて、大いに啓発される点が多々あつた。

この現情の熱意を見るにつき、よき指導書、参考書をおくつてこれにこたえたいことを痛感させられた。それにつけても保育要領にかわるべき、幼稚園教育課程の一日も早くこれらの方々におくられることである。

燈下親しむ秋幼児の教育にたづさわられる諸先生方の御健闘をいのる。